

経済学会・経済学部共催

シカゴ大学経済学部教授

ヒューゴ・ソンネンシャイン

教授講演会

交渉理論とメカニズムデザイン

(同時通訳付)

講演内容

Rubinstein-Stahl による交渉モデルとその効率的均衡、および、Myerson-Satterthwaite による合理的取引と効率性の両立不可能性は近年のゲーム理論がミクロ経済学にもたらした重要な結果であり、労働経済学、産業組織論等にも幅広く応用できるものです。この講演会では、学部生にわかるようにこれらの基本的結果を説明していただき、ミクロ経済学とゲーム理論の理論的発展や経済政策への貢献が具体的にわかることを目的とします。

日時 10月7日(水) 午後4:30~6:00
場所 三田キャンパス北館ホール
司会 グレーヴァ香子君

この講演は主として義塾経済学部学生のための企画ですが、大学院生及び他学部生の方も聴講できます。

Hugo F. Sonnenschein 教授 略歴

1961年 ロチェスター大学卒業
1964年 パーデュー大学(経済学 Ph.D.取得)
1991年~1993年 プリンストン大学副学長
1993年~2000年 シカゴ大学学長
2009年 BBVA foundation 賞(Economics, Finance and Management 部門) 受賞

主要論文

“Market Excess Demand Functions,” *Econometrica*, May 1972.

“General Possibility Theorems for Group Decisions,” (with Andreu Mas-Colell) *Review of Economic Studies*, 1972.

“Overcoming Incentive Constraints by Linking Decisions,” (with Matthew Jackson) *Econometrica*, January 2007.

慶應義塾経済学会(ex. 23237) グレーヴァ研究室(ex. 23220)